

薬剤師として西洋医学に関わる方が
「薬剤師が選ぶ本当の治療」として伝えたいことをまとめた手記

「ヘルペス・アトピー・ニキビ・ニキビアトピー手記」

匿名希望 37歳

2015年1月9日

—— 松本医院との出会いと私の最初の治療 ——

私は24歳くらいの頃、感染症の薬を処方していただきたく近所の病院を受診しました、それが松本医院でした。その時の印象はとりあえず「怪しい」でした。病院の看板にさまざまな科が専門として書いてあり、院内は漢方の匂いでいっぱい、壁には「ステロイドは絶対使いません」など、いろんなことが書いてあり、宗教っぽいのかな？何かしら民間療法みたいなことやってるのかな？と思いました。とりあえず、必要な薬をもらうだけ、と待ち時間を耐えていた記憶があります。しかし、それが松本医院と私の運命の出会いでした。

問診してくださった看護師さんから「そのニキビはアトピーだよ」と言われました。先生からは「この病院は近所の内科とは違う、全国から患者さんが来るようなところ。一度うちのHPを見て、その気になったらおいで」と言われたのを今でもハッキリ覚えています。そして、HPを見て、1週間後、受診しました。「アンタは来ると思ったよ」と言われました。当時、私はアトピーがひどかったわけでも、どこか悪かったわけでもないのですが、漢方を飲むことにしました。理由は「後天的免疫寛容」という言葉に惹かれたからです。

当時の皮膚の状態は、看護師さんからの指摘どおり20代半ばでしたがニキビが1つ2つ必ず出ている状態がありました。(ニキビが出来やすい肌だと思っていた)そして思い返せば大学生のとき、元の皮膚に触れないほど顔中ニキビが出来たことがありました。(年齢的なものだと思っていた)ただ、決定的に松本医院にかかろうと決めた事実としては、過去にセレスタミンを愛用していた頃があったからです。私は小学生高学年から花粉症があり、そのたびに近所の内科から処方されるセレスタミンを飲んでいたので。当時は当然成分なんて知りません、よく効くと思っていました。毎日ではないですが、症状がひどい日や痒みが出ると困る日に服用していました。一番連続で服用していたのは大学の卒業前～国家試験の勉強のための時期です。痒みで勉強ができないのはイヤだったので。その試験はナント(笑)薬剤師の国家試験でした。ホント恥ずかしい…。今から思えばなんてバカなことを…。さすがに薬学を勉強していた

のでその頃はセレスタミンの成分がステロイドと抗ヒスタミン剤であることは知っていましたし、花粉症が治らないことも知っていました。そして、なんとなく、ずっとステロイドを飲み続けていたらいつか症状が出なくなるときがおとずれるなんてことはないのかな？と勝手にイイように解釈し、飲んで、勉強していました。(薬学生でもそんなバカなことを考えるんです…ほんと、恥ずかしい。けど、他の治療法の可能性すら知らないので仕方なかったと思います) そんな理由で、松本医院の漢方を飲み始めました。先生から具体的に漢方薬の名前の説明は受けませんでした。処方された漢方を煎じて飲んでいました。時々処方が変わることがありました。最初飲み始めてすぐ首の後ろにアトピーが出ました。その後、腕や足にも出ました。そしてそれぞれ数週間で治まりました。花粉症の時期には別の漢方をもらいました。服用して30分くらい経つとスーッと目の前がひらけ、あの何とも言えない顔の奥のほうの痒みやムズムズ感が楽になり、「すごいな、漢方」と思いました。薬学を修めた私ですが、正直、在学中から漢方(生薬)はウソっぽいと思っていて、テスト直前に語呂合わせで覚えてクリアしていたし、国家試験の生薬の問題は数問しか出ないため、なんとなく覚えていることと勘で解くことにし、勉強しませんでした。松本医院に出会って初めて、生薬のすごさ、真実を知りました。スママセン先生。もっと勉強しておけば良かったと今頃後悔しています。

話はそれでしたが、私自身は4~5年漢方薬にお世話になりました。気づけば顔のニキビはまったく出なくなりました。花粉症はまだ症状は出ますが、一度ものすごく酷い症状が出た年があり、その翌年からは随分と症状が楽になった気がします。そのうち症状が出なくなると思っています。

——— 息子のアトピー治療 ———

それから5~6年経ち私は出産しました。子供は乳児湿疹(これもアトピー)が酷く出ていて、検診などでステロイドの処方が出ましたが、当然サラッと無視しました。しかし、症状はそのまま悪化し首の周りから脇あたり、顔(頬)が真っ赤・ぶつぶつ・ただれたようになってきたので生後半年の時に松本医院を受診しました。そして例のとおり漢方風呂と赤と黄色の薬、消毒など処方していただき治療がはじまりました。治療に関しては多くの方が壮絶な体験を書かれているのでうちの子のことはほとんど参考にならないかと思います。少しだけ書いておくと、うちの場合はステロイドも抗ヒスタミン剤も抗アレルギー剤も使っていないため、症状の出ている箇所に関しては漢方風呂を始めて数日で消えました。頬だけはなかなか頑固でしたが。症状がなくなっても漢方風呂には入れていたのですが、そうすると症状がなかった部分に症状が出るようになりました。お風呂に浸かっている間だけなのですが、多分痒かったのだと思います、お座りもままならない月齢の赤ちゃんだったので、お風呂の中でのたうち回って大泣きしていました。その状態に耐えながら30分は頑張ってお風呂に入浴さ

せました、お風呂の中でウンチをされたときはかなり凹みましたが…、そんなこともありました。5ヶ月間くらい入れまして、顔の症状もほぼなくなり、赤い薬もどこに塗ろう？というところまでキレイになったため、先生から「また症状出たらお風呂入れたらいいよ、軟膏は送ってあげるから」と言われ、一応治療終了になりました。

その後の経過は、1歳の冬に肘の内側、膝の裏側に軽く湿疹ができ、皮膚がカサカサになりました。黄色と赤を塗って痒いときには搔いてあげてあまり気にせず過ごし、春になる頃、気が付けばキレイになっていました。そして2歳の秋、ある日背中に湿疹が大量に出ました。その後、肘の内側、耳、膝の裏にも湿疹ができました。背中、肘、耳は軟膏だけで特に悪化していくことはなかったのですが、膝の裏だけは冬頃にはかなり酷い状態になってしまい、残っていた漢方風呂を焚き、毎日せっせと入れているところです。2歳はおしゃべりもできるし意志も伝えてくるので、正直入浴はとても大変です。痒いのが治ること、お母さんたちは早く状態を良くしてあげたいと思っていることを説明し、入浴後にはご褒美のおやつを与えて（それでいいのか？でも治療のほうが大切）、様子を見ているところです。

アトピーはなかなか完治（免疫寛容）に至らないと思っているので、一旦アトピーだなんてわからない、と周りから言われるほどキレイになった肌に再び酷い症状が出て驚きません。異物との戦いはまだまだ続きますから。ただ、正しい対処法（免疫を抑えない、免疫を上げる漢方を使い、傷を早く治し、感染症を防ぐ）を知っているので怖くないです。処置は面倒ですけど。（苦笑）子供がもう少し大きくなったらアトピーの原理（免疫のメカニズム）や松本医院の治療方針について説明していきたいと思っています。当然、飲んではいけない薬、塗ってはいけない薬についてもしっかり教えていきたいと思っています。

今、子供は保育園に行っているため年中風邪を引いています。基本的に病院にはかかりませんが、もしかかることがあっても不要な薬は飲ませていません。先生、うちの子は生まれてから今まで、私が管理できる範囲で可能な限り免疫を抑えていません。私はこの子が羨ましいです。（笑）

余談ですが…2歳半の今、面白く育っていますよ。

- ・痒くなると「かゆいー、あかぬってー」
- ・私と主人が飲んでるものを見て「それ、かんぼう？」
- ・痒い痒いアトピー治すのにどうしたらいいかわかる？と聞くと「かんぼう」
- ・少しジュクジュクになっている部分（自分の肘など）を見て「とびひになるよ」
- ・私たちがどこか痒いというと「あかぬってね」「あかぬればいいよ」

—— 私の膠原病？の治療 ——

膠原病？と書いた理由はのちに。息子1歳の冬、息子のアトピーは落ち着いた

ていた頃、私にある症状が出ました。さかのぼると妊娠中くらいからだったのですが、口の周りの「荒れ」が気になっていました。妊娠すると体質が変わるから、など周りから言われました。体質という単語は嫌いですが、とりあえずヘンな薬など使わず、口紅も塗らず、化粧もなるべく付かないようにしていただきましたし過ぎしていましたが、ついに大変なことに。酷く体調を崩したのをきっかけに、口の周りが真っ赤になり、皮膚が崩壊し、汗が出ました。今思えばピリピリもしていました。マスクで隠していたのですが、ある日それが臉にも出来ました。二重の筋もなくなるほどパンパンに目が腫れました。何だろう？久々に松本医院 HP を熟読。ピリピリはヘルペスだなと確信。一般の皮膚科医的にはアトピーかな？多分松本医院に行くしかないな、と思いながら、とりあえず近所の皮膚科はどう言うだろうか、と受診しましたら…「それはヘルペスでもない、アトピーでもない、自己免疫疾患（膠原病）だと思ふ。大学病院を紹介します、今日は血液検査をします（膠原病の確定診断）」と言われました。とりあえず抗ウイルス剤だけでももらえないかと期待していたのですが、処方してくれませんでした。そして私は「以前お世話になった信頼している先生が大阪にいます。セカンドオピニオンという形でそちらを受診します」と言い、検査をすべて断り、松本医院にかかりました。

息子のアトピーで受診したときも、自分が 10 数年ぶりに受診したときも、自分自身が過去にかかっていたことはあえて言いませんでした。理論はなんとなく理解しているし、治療に不満も疑問もないし、そもそも先生は何千人という患者さんを相手にしているので、いちいち覚えているわけないですしね。しかし、自分の症状で久々にかかって経緯を副院長に説明していたら、後ろから医院長が顔を出し、突然「ワシ、アンタのこと知っとるぞ。どこやったかな？会社も覚えとるぞ」と言われました。そしてしばらく考えた後、私が働いていた会社の名前と職種をズバリ言い当てたのです。正直かなり驚きました。10 年以上前の私のこと、覚えていたのです。先生、めちゃ記憶力いいです。（こんな言い方で失礼ですが）しかも私、大変なアトピーとかリウマチとか変わった病気とかでもなんでもなかったんですよ。全然重症患者ではなかったです。この件は本当にびっくりしたのと、嬉しかったのと、先生やっぱりスゴイと思いました。（こんな表現しかできず、すみません）

そして、肝心な先生の見解は、自己免疫疾患なんて病気はない！ということ。これも HP に書いてありますね、私もしっかり読んでから受診しましたので、やっぱりな、と安心しました。松本医院での血液検査の結果はやはりヘルペス抗体が高かったです。（20.7）そしてリンパ球が低かったため先生から「ストレス減らしやー」と言われました。（これが難しい…）例によって漢方煎じ薬、抗ウイルス薬をもらい治療がはじまりました。漢方を飲み始めたのが 12 月後半、年末年始は最悪な状態でした。1 月中はどんどん赤いところが増えました。顔中、首の見えるところ全体的に現れました。そして 2 月に入ったら逆に症状は引いていきました。4 月初めにはマスクしなくても外出できるようになり、5 月くら

いに症状はほぼなくなり一旦終了ということになりました。しかし、服薬しなくなって半年以上経過しましたが、時々軽く症状が出るがあるので、ピリピリするときは抗ウイルス薬を飲んでいきます。しかしやはり昨年と同じような症状の経過があるため、再受診予定です。(残っていた漢方を数日前から飲み始め、すぐに痒いところが出てきました) 免疫のかかわる症状は、人間がストレスを感じる限りはなくならないのかなと思います。私になぜこのような症状が出たか、原因はハッキリしませんが、先生のHPの理論で勉強し自分なりに解釈していることとしては、ストレスや不妊治療で使ったホルモン剤の影響で免疫を抑えていたからだと思います。いつか、すべてから解放され免疫の高い状態で楽しく生活したいものです。

——— 伝えたいこと ———

今現在、実は主人が松本医院でサルコイドーシスの治療をしています。うちは家族全員が松本医院にお世話になっています。一般的な病院、医師にかかっては本当の治療ができないですからね。松本先生の理論が1日も早く一般的になってほしいと期待します。不要な診断や薬に保険適応があつて、どんどん医療費(税金も含む)を使って、そしてどんどん余計な病気を増やし、それを難病ですと言い、治療方法が確立されてないからと特定疾患の認定受けて(昨年までは)医療費は無料ですよ、って…。難病ですよと言われ、多くの人は落胆するでしょう。しかし、治らなくても医療費が無料だから仕方ないけどいいや、付き合いおうと思う人も多いでしょう。(それでも完治させたいと思う人がネットで調べて松本医院を受診するのでしょうか…)でも特定疾患の法律も変わり自己負担が生じるようになりましたね。あまりに特定疾患の人が多いのでしょうか。お金がかかりすぎるので国も制度を見直したのでしょうか。そもそも国は一般的な保険診療が特定疾患を増やしていることに気づいていませんからこの先もこの問題は解決されないでしょうけど。しかし、治療に一生お金がかかるなら完治の方法はないか?と治療法を探すひとは増えるかもしれませんね。先生のところ、もっと忙しくなるかもしれませんね。うれしいですね。医者になる人はもともと頭のいい人が多いのに、どうして今の医学の常識に疑問を持たないのでしょうか。たとえ疑問を持っていても、今の仕事(保険診療)で稼げるから、現状維持にとどまっているのでしょうか?医者がヒマみつけて松本医院のHPを読めば、基本的には内容は理解できるはずだし、腑に落ちることが本当に多いと思うのですけどね…。早くこの治療が認められ、これこそが保険適応になるべきだと思います。この治療を経験した人の中から、先生の治療を継承する医者が出てくること、保険制度などを変えることができる人が出てくることを期待します。という私も現在は保険薬剤師として勤務し、お給料をもらっていますので、理想を語る立場ではないのですが…。当然、仕事ではステロイドや抗ヒスタミン剤の説明を(平常心を保って)していますから。とても不

本意なのですけどね。それがストレスで膠原病(?)を発症?だとしたら皮肉ですね。けれど、患者さんから「どうして治らないのでしょうか?」「他の治療法はないのでしょうか?」「何かいい薬知りませんか?」と聞かれれば、『全国にはたくさん医者がおられ、それぞれ独自の理論を持っている医者もいます。調べてみて賭けてみるのも手ですよ。西洋医学はまだ歴史が新しいですから』と伝えています。

アトピーやリウマチ、シェーグレン、クローン病などはもちろん、頭痛、めまい、耳鳴りで長年苦しんでいる患者さんは本当に多数います。どこへ行っても治らない。どこへ行っても似たような薬。医者にもあまり相手にされない。と私たち薬剤師に愚痴をこぼされていきます。職業上いろいろな科のいろいろな処方を見ますので、気の毒だな、と思うことも多いです。私の心の中は、こんな感じです。

「無駄な薬だな…治らないのにね…」

「むしろ他の余計な症状が出そうだな」

「この人もあの人もヘルペスだろうな。抗ウイルス薬飲めば楽になりそうだな」

プライベートではもちろんハッキリと松本医院とHPを紹介しています。これまでに何人か先生のところを受診していますよ。その友人もさらに人を紹介していると聞いています。『**薬剤師が選ぶ本当の治療**』として、これを読まれた人には理解してもらえたらいいなと思います。理論は松本医院HPを何度も読んでください。何度読んでもわからないかもしれませんが、大筋だけでもわかればいいと思うのです。わからない単語は気にせず読めばいいと思います。何度か読んでいると大切なことは分かってくると思います。あるとき先生に「HP難しくて一般の人は理解できないと思います」ってお話しましたら「学者向けに書いている」とおっしゃっていたので、私たち一般の人は、完璧に理解できなくてもいいのだと思います。できるだけ多くの人と、この治療を理解し、体験を共有したいと思います。先生、これからも私の大切な人たちの免疫を上げる手助けをしてください、よろしくお願ひします。

手記の提出が遅くなり申し訳ございませんでした。